

2018年6月 No35

「どんぐり工房」「だんらん」の充実をはかる！



30年度通常総会が開催され 方針を決定

平成30年度「希望」の通常総会が、6月16日に総合福祉センターで開催されました。佐渡斉四街道市長さんをはじめ、多くのご来賓をお迎えし、会員・賛助会員 52名が出席（委任出席を含め）して総会は成立しました。

初めの挨拶で渡邊皓寛理事長は「29年度にグループホームを多くの市民の皆様、そして市ご当局からの温かなご支援のもとに開設出来ました。NPO法人として市民の期待に応えて障がい者の自立に向けた事業を推進することが出来たことを嬉しく思います。本年度も定款に掲げた目的の実現に向けて努力して行きましょう」と述べました。ご来賓の佐渡市長さんは、「障がい者福祉に市として今後とも十分に取り組むと共に「希望」の活躍に期待します」と祝辞を述べられました。

総会議長に選出された、賀川知彦さんのもとで議事は進行されました。前年度の事業報告は、どんぐり工房と新たに開設されたグループホーム「だんらん」の部門別に分けて報告されました。

活動計算書類の報告と業務・財産監査報告も満場一致で承認されました。

新年度（30年度）の事業計画案は、渡邊理事長から事業予算案は小林征司副理事長から提案説明があり、異議なく満場一致で採択されました。

今年度総会は、役員を選出年次に当たらないので渡邊理事長のもと各理事・監事は30年度も役職務に従事します。ただ、畑山理事は一身上の都合により退任されました。以上の通り、通常総会は滞りなく終了しました



畑山静江理事が退任し 会員の皆さんに挨拶をよせられました



どんぐり工房が、Aビルという場所で開設したころから理事を務めさせていただきましたから、もう何年になりますか。「どんぐり工房」から去年の「だんらん」の開設まで、会員の皆さんとご一緒に文字どおり「希望」に燃えて福祉の事業に取り組んで参りました。

民生委員を務めていた時期と一緒にしたから、この仕事の困難さと、しかし志（こころざし）を高く掲げてそれを乗り越える大切さも学びました。理事を退任しても、一人の会員として今後も希望の発展に力を尽くしてまいります。皆様有難うございました。（談）

ともさんの詩

ともさんの詩集が二四号まで
発行されました。お求めください

ともさんの詩集が二四号まで



いいのにな
もつと自分を出してくれて

優しい声が 遠慮がちに話す



「電話の声」

障害年金1,000人打ち切りか？

年金機構が検討（報道）

日本年金機構が障害基礎年金の受給者約1,000人余りに対し、障がいの程度が軽いと判断して支給打ち切りを検討していることが判明しました。審査手続きが全国で一元化された影響と見られていますが「症状は良くなっていないのに困る」との声が聴かれるとも。対象者には、特例的に1年間の受け取りを継続しつつ、今年度中に改めて支給するか否かを審査するとの通知が届いて

いるそうです。皆さんのところは如何ですか。

障害基礎年金は、自営業者や専業主婦、学生などが加入する国民年金の期間中に初診日がある病気やケガによって障がいの状態になった場合に受給できる年金です。受給者は、症状に応じて数年おきに医師の診断書を提出して更新手続きをする必要がありますが、機構は「受給できる障害の程度にあると判断できなかった」との審査結果を1,010人の人に通知したようです。ただし、H29年度は支給を続け、今年度改めて審査したうえで診断書の内容が同じなら支給停止になることもあるとしています。身近な問題として、私たちが注目して行きます。

県内の障がい者の就職が過去最多 精神障がい者の件数は1,500件

県内のハローワークを通じた、H29年度の障がい者の就職件数が3,351件となり、8年連続で過去最多を更新しました。（千葉労働局まとめ）

中でも障がい種別では精神障がい者の就職件数が1,502件で最多でした。企業に義務付けられた障がい者の法定雇用率が4月に2.0%から2.2%に引き上げられ、精神障がい者も加えて算定されるようになりました。「引き上げを見据え、企業の採用意欲が活発になった」と言われていますし、新規求職申込件数は14年連続で過去最高を更新しているとのこと。しかし、本当に障がい者が働きやすい環境が整えられるかが問題です。

編集子雑感

法人の通常総会が滞りなく終了しました。会員の皆様に日ごろのご支援とを併せて御礼を申し上げます。なお、会費未納の会員の方は納入方宜しくお願い致します。 Ob.

